

荒川の自然を守る会 設立趣旨

1991年地元の荒川の自然を地元の人たちの手で守ろうと上尾市で活動を始めました。

私たちは豊かな自然は子どもたちの財産だと設立当初から考えていました。

初めは上尾と川越と川島町に接した、旧流路の三つ又沼周辺を残そうと考えました。そこには古老たちが「遊園地のような場所」と楽しんだ豊かな自然がわずかに残っていました。が、子どもたちにとって危険で近寄ってはいけない場所になっていました。バブルの時代は河川周辺の土地はゴミ捨て場のようになっているところもたくさんありました。自然再生は表面のものばかりではなく地面の中にも目を向ける必要があります。

荒川から始まった当会の活動は、台地の上も荒川の源流であると気づき、荒川から少し離れた里山にも目を向けて丸山公園内・上尾道路の環境施設帯などで里山再生に取り組んできました。

活動する中で「荒川の堤防は首都圏の大草原 河川敷は多様な生物の宝庫」であることに気づきました。

さらに最近は「自然を保護・保全するだけでなく、守り育てる活動」もしていけないと日本の自然は守れないと実感しています。身近な自然は従来考えていた以上に食料や科学・工業原料その他多くの可能性を秘めています。

子どもの時たくさんの自然に囲まれて楽しんだ人たちが引退の時期になりました。子どもの時と同じような自然の楽しみ方をすると、狭くなった自然はたちまち無くなってしまいます。多くの方に自然は人間だけがむさぼりつくしてはいけないことに気づいていただきたいのです。現代は自然との共存の仕方も変わってきたのです。

最近になって取り組んでいる平方河岸の文化遺産を生かす会とのコラボは、荒川の自然が地域の歴史・文化を築いてきたことを再認識したことから始めました。

豊かな日本在来の自然を将来世代の財産として残しましょう。

前 代表理事
菅 間 宏 子